

◆ 今週のコメント

- ・ **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**の報告が第52週に2例(共に, 80歳代女性)あります。推定感染経路は, 一例は接触感染で, もう一例は不明です。一例は免疫不全の患者の尿から *Enterococcus faecium* に *van A* 遺伝子が検出され, もう一例は腸炎の患者の便から *Enterococcus faecium* に *van A* 遺伝子が検出されています。累積報告数は平成23年が3例で, 平成17年以降, 3例, 4例, 2例, 1例, 3例, 0例となっています。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が第1週に2例(60歳代女性, 60歳代男性)あります。推定感染経路は, 一例は創傷感染で, もう一例は不明です。平成23年の累積報告数は4例です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は第52週(12月26日～1月1日) 1.47(97例), 第1週(1月2日～1月8日) 2.69(172例)となっており, 第1週は第52週よりも増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 8例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 5例)うち喀痰塗抹陽性なし
【平成23年1月以降の累積報告数 458例(肺結核 222例, その他結核 84例, 潜在性結核感染者 152例)うち喀痰塗抹陽性 119例】(第52週分)
- ・ 五類:バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2例【平成23年1月以降の累積報告数 3例】(第52週分)
- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2例【平成24年1月以降の累積報告数 2例】(第1週分)

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点64, 小児科定点37, 眼科定点10, 基幹定点1)(第1週)
(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)(第52週)

定点	感染症名	第1週		第52週	
		定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	2.69	172	1.47	97
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.49	203	8.79	343
	② 水痘	1.30	48	1.38	54
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	17	0.82	32
	④ 手足口病	0.43	16	0.64	25
	⑤ RSウイルス感染症	0.41	15	0.28	11
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5	0.10	1

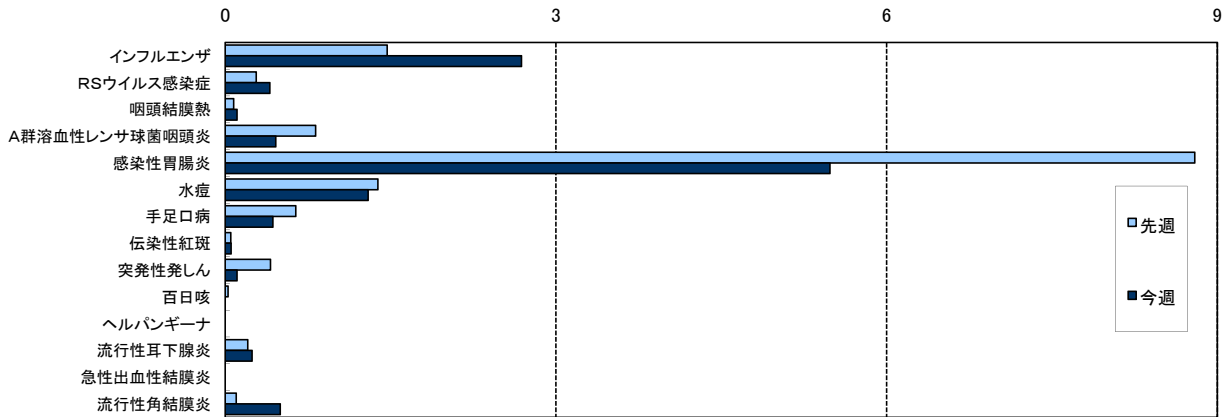
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成24年1月12日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

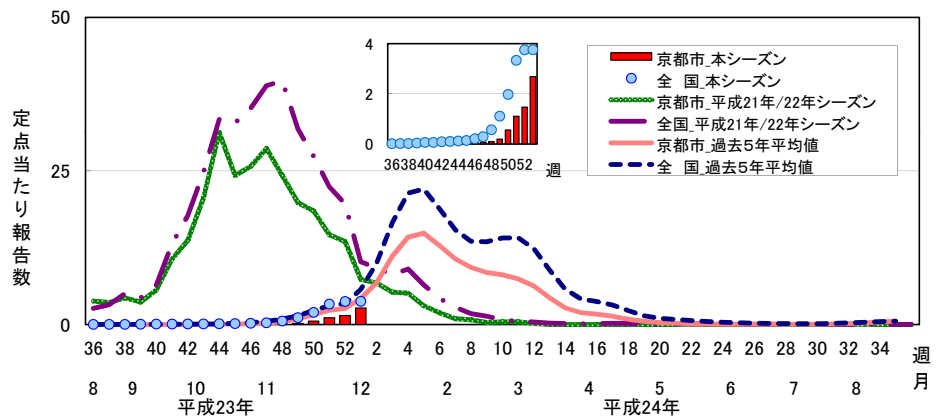
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第1週)と先週(第52週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第49週	13
第50週	37
第51週	73
第52週	97
第1週	172
累積報告数 (第36週以降)	419

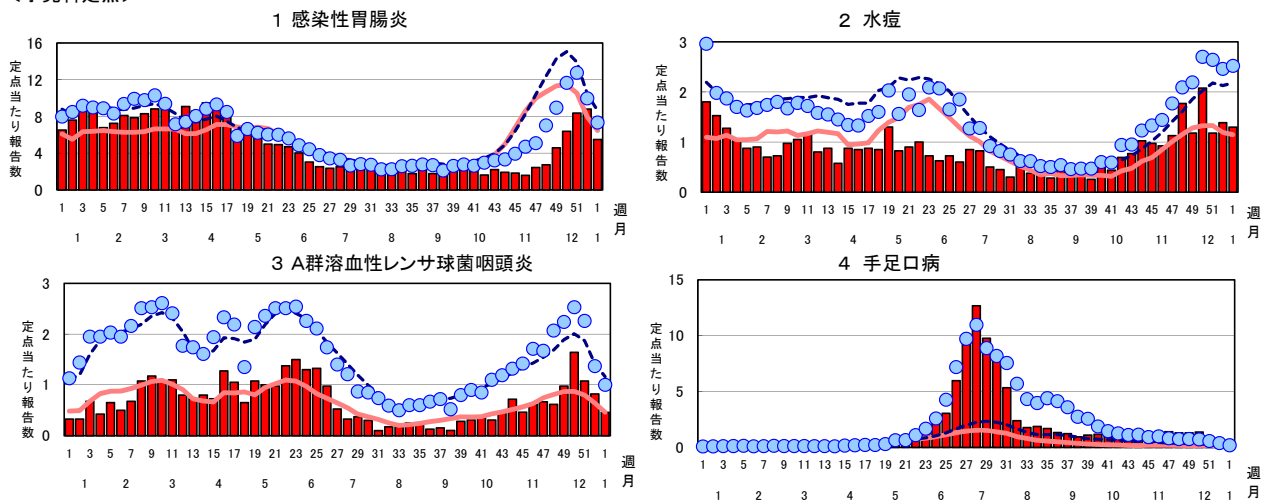


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23の平均値です。

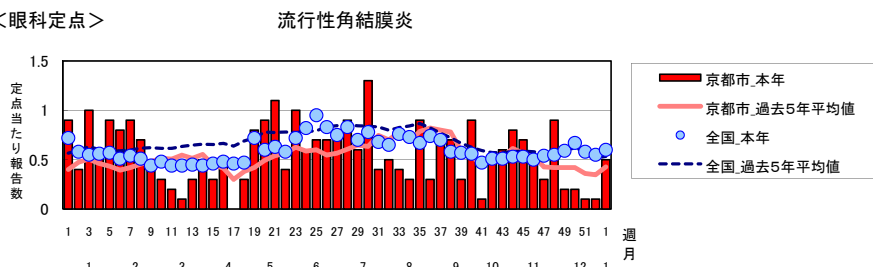
※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



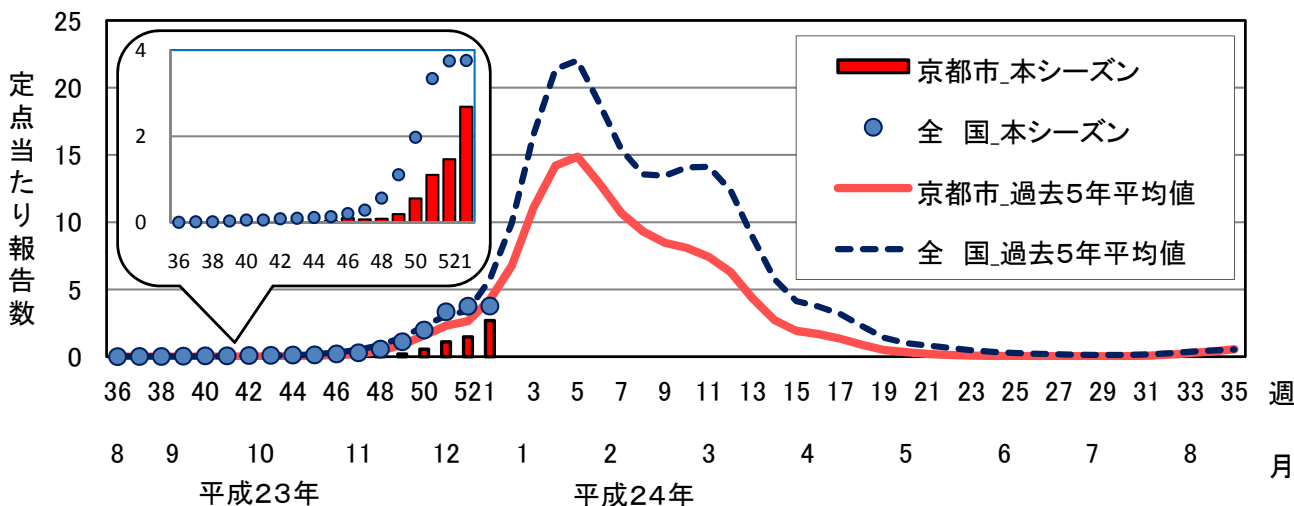
合併号(12月26日～1月8日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は第52週(12月26日～1月1日) 1.47(97例), 第1週(1月2日～1月8日) 2.69(172例)となっており, 第1週は第52週よりも増加しています。

年齢群別では, すべての年齢群から報告があります。

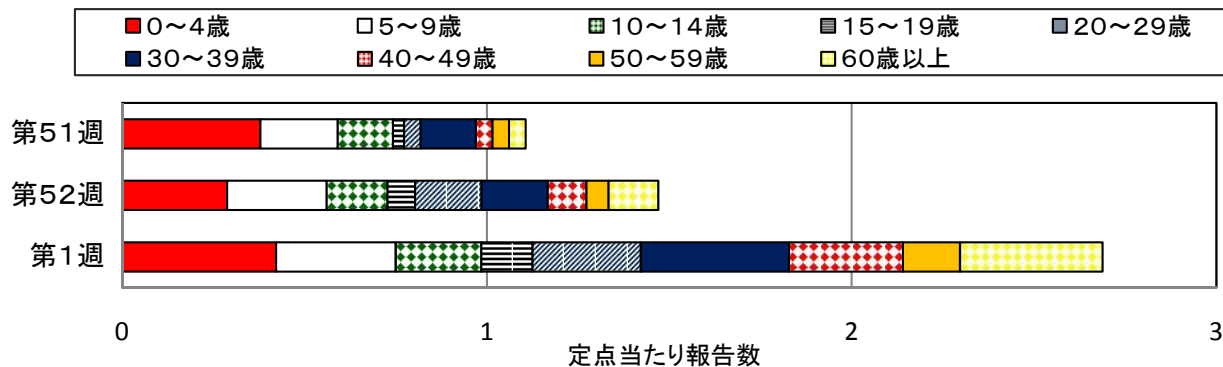
感染症情報センターに報告された全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告状況(平成24年1月16日現在)をみると, 今シーズンはA(H3)型 90.3%, B型 9.3%, A(H1)pdm09 0.4%となっています。京都市衛生環境研究所では, 12月にA(H3)型が1例分離・検出されています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※平成21年/22年シーズンは, 新型インフルエンザの発生により, 例年と流行傾向が大きく異なるため, 過去5年平均値は, 36-52週はH17-H20年及びH22年, 1-35週はH18-H21年及びH23の平均値です。

年齢群別定点当たり報告数の推移



全国のインフルエンザウイルス分離・検出数(1月16日現在)

